

令和3年度 伊予中学校 学校評価

令和3年12月実施

1.◎できている、2.○おおむねできている、3.▲ややできていない、4.×できていない

項目	質問内容及び目標値	総合	学校による考察・改善方法	評価	アンケート結果(%)				肯定率 (1,2の計)
					1	2	3	4	
学習指導と教育課程	年間計画どおりに学習指導が進めている。 目標値: 肯定率100%(教①)	A	昨年度に引き続き、コロナ禍の中ではあるが、授業時数の確保に努めた。来年度に向けて、積み残しがないよう各教科毎に週案を活用し、進捗状況を把握する。また、緊急事態に備え、オンライン授業の準備を整える。	教職員① A	46	46	8	0	92
	よく分かる授業に努めている。(よく分かる授業をしている。) 目標値: 肯定率80%(教②・生⑩・保⑥)	A	できていると評価している生徒が半数おり、高評価である。継続して「分かる授業」を推進できるよう共通の研修体制のもと、各教科で更なる授業改善を図る。	教職員② A 生徒⑩ A 保護者⑥ A	15 53 17	85 41 73	0 6 9	0 0 1	100 94 90
	自分の考えをまとめたり、伝え合う授業改善に取り組んでいる。(生徒:じっくり考え、進んで発言・話し合い。) 目標値: 肯定率80%(教③・生②)	A	生徒の評価がやや低い。コロナ禍で生徒が自由に意見交換をする場の設定を取り入れた授業展開が少なかったことが要因の一つに挙げられる。各授業の中で、タブレットを用いた話し合い活動を取り入れ、深い学びにつながるような授業改善の実践を推進する。	教職員③ A 生徒② A	23 47	69 41	8 12	0 0	92 88
	道徳の時間を要に「心を耕し鍛える」道徳教育を推進している。(自分の思い・考えを深めている。) 目標値: 肯定率80%(教④・生⑤)	A	ローテーション道徳の導入や各学級で充実した道徳の授業を通して様々な価値観に触れる授業展開を行った。しかし、自分の思いを伝え合い、深め合うレベルには達していない。道徳の授業の在り方について、校内研修を充実させ、教師の授業力を高める研修体制を整える。	教職員④ A 生徒⑤ A	0 34	85 46	15 17	0 2	85 80
	授業に真剣に取り組む、学力向上を目指して努力している。 目標値: 肯定率80%(教⑤・生①)	A	全体的には肯定率が高い評価結果ではあるが、基礎・基本の学習内容が習得できず、学力の向上に直結していない生徒も見られる。今後、各教科で、生徒の意欲をより高める工夫を取り入れ、学力向上に努める。	教職員⑤ A 生徒① A	46 41	54 49	0 9	0 1	100 90
	家庭での学習習慣が身に付く指導をしている。(身につけている。) 目標値: 肯定率80%(教⑥・生⑦・保①)	B	教職員と生徒の間で評価での差が若干感じられる。家庭での学習習慣を確立させ、基礎・基本の定着を図るために、今後、タブレットを用いた課題の設定を行い、家庭における新しい学習手段を導入する。	教職員⑥ B 生徒⑥ B 保護者① B	8 21 19	54 51 45	38 24 28	0 4 8	62 72 64
	生徒会活動・学校行事・部活動等で充実した活動を展開している。(充実している。) 目標値: 肯定率80%(教⑦・生④・保④)	B	コロナ禍でメインとなる学校行事が規模縮小で実施されたり、中止になったりするなど、昨年度に引き続き、今年度も生徒会活動や部活動の充実については評価しにくい。	教職員⑦ B 生徒④ A 保護者④ A	15 61 33	54 33 55	15 3 10	15 3 2	69 94 88
	学校関係者評価委員の所見	今年度も昨年同様、様々な制限下のなかで感染対策を徹底し、生徒の学習の場を確保出来ている。コロナ感染予防のため、部活動が中止となった時期があったが、今後も同じような状況になると想定される。その場合は、家庭で過ごす時間が増えるため、課題を増やしてもらいたい。	学校の対応	今年度は2学期から本格的に、生徒一人に1台のタブレットを用いた授業を展開し、コロナ禍に対応できる学習環境を整えた。タブレット上での課題に取り組むことにより、学習効果も得ている。今後、学校で学習した内容を振り返る手段としてタブレットを活用し、家庭学習の習慣化を図り、各教科の基礎学力の向上に繋げる。					
人権・同和教育	一人ひとりを大切にし、人間尊重を基盤とした集団づくりができています。 目標値: 肯定率80%(教⑨・生⑮・保⑧)	A	全校体制での取り組みにより、良い評価を得ている。今年度は、有志による人権委員会を立ち上げ、より良いコミュニケーションの取り方等を中心とした啓発を行った。今後、啓発内容を広げ、委員会活動を全校へ広げ、更に生徒の人権尊重の意識を高める。	教職員⑧ A 生徒⑮ A 保護者⑧ A	0 65 18	92 32 67	8 2 12	0 1 2	92 97 85
	人権・同和教育に計画的に取り組み、人権意識の高揚を図っている。(仲間づくりなどに進んで取り組んでいる。) 目標値: 肯定率80%(教⑩・生⑧・保⑨・地①)	B	学級担任を中心に、それぞれの学年・学級の状態に応じて適切な指導を行っていることにより良好な評価を得ている。引き続き継続し、温かい人間関係の構築に努める。	教職員⑨ B 生徒⑦ A 保護者⑨ A 地域① B	23 57 19 44	54 34 70 33	15 8 10 5	8 0 1 0	77 91 89 77
学校関係者評価委員の所見	コロナ感染拡大以前は、人権研修や地域との交流研修などを実施したり、生徒の人権標語やポスター等の紹介があり、学校が一人一人を大切にされた教育に取り組んでいる様子が良く分かった。コロナ禍での学校の取組を地域に発信する方法があると良いと思う。	学校の対応	今年度は、有志による校内人権委員会を立ち上げ、校内での活動を進めた。今後、更に有志を募り、「伊予中学校人権宣言」を基に、互いの人権を尊重し合える集団づくりに努める。また、教師の研修として、公民館で行われる人権教育に引き続き協力して取り組み、学校と地域が一体となって差別やいじめをなくす啓発を行う。						

項目	質問内容及び目標値	総合	学校による考察・改善方法	評価	アンケート結果(%)				肯定率 (1,2の計)
					1	2	3	4	
生徒指導	いじめ、不登校に対して誠実な態度で未然防止、早期発見、早期対応に努めている。 目標値: 肯定率80%(教⑪・生⑬・保⑩)	A	全般的に良好である。いじめについては、どの学校でも起こり得ることを前提に、生徒の様子をよく観察する。また、不登校生徒の学びを確保するための手段としてタブレットを有効に使う。	教職員⑩ A 生徒⑫ A 保護者⑩ A 地域	31 59 19	69 34 67	0 7 11	0 0 1	100 93 88
	様々な機会を通じて生徒と関わり、生徒理解に努めている。 目標値: 肯定率80%(教⑫・生⑭・保⑪)	A	全体的に良い評価を得ている。それぞれの家庭に事情があり、それが原因で登校に不安を抱えている生徒も若干名いた。スクールカウンセラー等と教員の連携を図りながら、日頃、表に現れにくい生徒の悩みを情報共有しながら個別の生徒指導を継続する。	教職員⑪ A 生徒⑬ A 保護者⑪ A 地域	31 53 20	69 38 66	0 8 13	0 1 1	100 91 86
	生徒も教師も気持ちのよいあいさつができる。 目標値: 肯定率80%(教⑬・生⑯・保⑤・地②)	A	コロナ禍の影響もあり、あいさつが響きにくい状態であるが、まずは、教師が率先してあいさつを行うとともに、生徒へ呼び掛けを行い、生徒の健全育成に努める。	教職員⑫ A 生徒⑮ A 保護者⑤ A 地域② A	8 44 34	77 39 46	15 15 17	0 3 2	85 83 80
	朝食をとる、身だしなみを整える、時間を守るなど基本的な生活習慣が身に付くよう指導している。(身に付いている。) 目標値: 肯定率80%(教⑭・生⑨・保②)	A	肯定率が高く、良い傾向であるあるが、「学校を明るくするアンケート」を実施すると、自己肯定感が低い生徒も若干名いる。今後、生徒が抱える不安を解消するために、教師が良きアドバイザー役を担えるよう環境を整える。	教職員⑬ A 生徒⑧ A 保護者② A 地域	38 61 47	62 35 41	0 3 12	0 1 0	100 96 88
学校関係者評価委員の所見	「挨拶」は相手の持ちや状態を把握し、コミュニケーションを取るために大切である。場所や相手を問わず、子どもたちが気さくに挨拶ができる良き伝統を継続してもらいたい。日頃から、子どもたちの観察を行い、気軽に話し合える環境を整え、いじめ、不登校の未然防止、早期発見に努めてもらいたい。	学校の対応	南伊予の良き伝統を受け継ぎ、教員が率先して挨拶を交わし、生徒が気持ちよく学校生活を送れるよう、意識して指導にあたる。 今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、学校行事が殆ど中止となった。リモートを活用し、コロナ禍でも、地域と子どもたちが繋がれるような時代に沿った行事の企画運営を実施する。						
安全管理	保護者・地域と連携し、地域ぐるみの安全確保に努める体制ができています。(生徒:安全な登下校) 目標値: 肯定率80%(教⑮・生⑩・保⑫・地③)	B	全体的に良い評価を得ているが、自転車による登下校中のマナーについては今後も継続した指導が必要である。保護者や地域の方の協力を得ながら地域ぐるみで子どもたちの安全確保に努める。	教職員⑭ B 生徒⑨ A 保護者⑫ A 地域③ A	15 80 30	54 18 65	23 2 5	8 0 0	69 98 95
	避難訓練等を計画的に実施し、非常時に対応できる体制をとっている。 目標値: 肯定率80%(教⑯・生⑰・保⑬)	A	今年度は土石流発生を想定した一次避難として垂直避難訓練を実施した。訓練を通して非常事態に備えるための課題もあった。可能な限り、危険を予測し、非常時に備え得る環境を整える。	教職員⑮ B 生徒⑯ A 保護者⑬ A 地域	8 79 31	69 21 62	15 0 6	8 0 1	77 100 93
	校内安全点検を定期的に行い、潜在危険の除去に努めている。 目標値: 肯定率100%(教⑰)	A	今年度は施設の老朽化による破損箇所が多かった。早期発見、早期修繕により、生徒が安全に学校生活を送れる環境は整えられている。今後も教職員による校内点検を継続し、安全な施設環境を保つ。	教職員⑯ A 生徒 保護者 地域	15	85	0	0	100
学校関係者評価委員の所見	本校校区には30km制限区域もあり、危険箇所も少なくはないが、保護者や地域のボランティアスタッフによる見守りが強化されており、子どもたちが安心して登下校ができている。引き続き通学中の安全確保に努めてほしい。	学校の対応	登下校時に危険となる箇所の見回りを強化し、生徒が安全に通学ができるよう細やかな呼び掛けを継続しているが、登校時の車との接触や自転車での転倒等が見られた。予期せぬ事態に遭遇した際の対応についても指導する機会を設け、事故ゼロ！を目指す。						
特別支援教育	学習が遅れがちな生徒や配慮を要する生徒への適切な指導ができています。(個別指導や学習相談等) 目標値: 肯定率80%(教⑱・生⑲・保⑦)	A	授業が分かりにくいと感じるようになった生徒が出てきている。TTの活用や個別指導・学習相談の改善に努めたい。課題の設定や提示の仕方、指示を出すタイミング等、個々にあった支援方法を工夫する。	教職員⑰ A 生徒⑲ A 保護者⑦ A 地域	15 56 16	69 36 67	15 6 14	0 1 2	85 92 83
	特別支援教育に対する教職員の共通理解が図られ協力体制を整えている。 目標値: 肯定率80%(教⑲)	B	支援が必要な生徒について職員会等(ケース会議)を開催し、全教職員で共通理解を図り、一貫した支援を行い、生徒が安心して学校生活を送れるようにしたい。	教職員⑱ B 生徒 保護者 地域	15	46	31	8	62
学校関係者評価委員の所見	要支援の子どもに対する個別の支援が行われている。学習の遅れが出ている生徒については、教職員が協力して支援をお願いしたい。	学校の対応	昨年度の調査より、生徒・保護者の肯定率が高くなっているが、学習の遅れが出る生徒への支援方法に改善点が見られる。引き続き教職員の横の連携を密に取り、個々に必要な支援の在り方を教職員で確認しながら適切な支援を継続する。						

項目	質問内容及び目標値	総合	学校による考察・改善方法	評価	アンケート結果(%)				肯定率 (1,2の計)	
					1	2	3	4		
研修	研修計画に沿って授業研究に取り組み授業力の向上に努めている。 目標値: 肯定率80%(教⑳)	B	「分かる授業」を進めていくために、各教科の指導方法の改善や、教職員用の研修を行っていくことが必要である。	教職員⑱	B	15	46	38	0	62
	健全な社会人として信頼されるよう努めている。 目標値: 肯定率80%(教㉑)	A	働き方改革の一つとして、月の一斉退勤日を今年度より取り入れた。教育公務員としてのサービスの徹底を行い、教職員が心に余裕をもって教育活動にあたる地域からの信頼を得ると共に繋がることを考える。	教職員⑳	A	31	69	0	0	100
				生徒		-	-	-	-	
				保護者		-	-	-	-	
地域		-	-	-	-					
学校関係者評価委員の所見	授業に対する教員の取り組みは、時と場合に応じて対応されており、安心感がある。		学校の対応	業務の精選を図り、教職員が心身とも健康な状態で子どもたちの指導に当たれるように努めたい。また、保護者・地域から信頼される教師集団を維持するため、今後もサービスの徹底を図る。						
地域連携	学校教育の様子を学校だよりやホームページ等で情報発信している。 目標値: 肯定率80%(教㉒・生⑱・保⑭・地④)	A	コロナ禍が続く中で様々な学校行事が規模縮小、または中止となり、学校だよりやホームページなどで学校の様子をなかなか発信することができなかった。コロナ禍での生徒の頑張りを発信できる手立てを考える。	教職員⑳	B	15	54	31	0	69
	地域の教育資源(ひと・もの・こと)を生かした活動を推進している。「来てもらったり、出向いたり・・・」 目標値: 肯定率85%(教㉓・生⑲・保⑮・地⑤)	A	コロナ禍で校外学習での地域資源活動は少なかったが、地域の商工会等との連携を生かし、出前講座による学習を実施した。今後、リモートによる地域資源の活用方を考える。	生徒⑱	A	65	29	6	1	94
				保護者⑭	A	32	52	14	2	84
				地域④	A	73	20	5	0	93
	学校から発信した文書類は、保護者の手元に確実に届いている。 目標値: 肯定率85%(生③・保③)	B	生徒は、学校からの文書類を保護者に届けていると評価しているが、保護者は、手元に届きにくいと感じており、評価にずれがある。ラインズメールと文書との両方で確実に学校からの情報が速やかに伝わるよう努める。	教職員		-	-	-	-	0
				生徒③	A	52	34	11	3	86
	学校、PTA、地域はリサイクル運動等様々な行事を通して、よく協力して活動している。 目標値: 肯定率80%(教㉔・生⑳・保⑯・地⑥)	A	昨年度に引き続き、PTA活動が万度に実施できなかった。来年度も想定されるコロナ禍での教育活動の中で実施できる行事の在り方を考える。	保護者③	B	30	45	19	5	75
				地域		-	-	-	-	0
教職員㉓				A	14	69	15	0	83	
学校関係者評価委員の所見	毎月、学校だよりを届けてくれる生徒たちが笑顔でとても爽やかである。今後の成長が楽しみである。今後もコロナ禍での教育活動が想定されるが、コロナ禍ではの地域との交流の在り方を考える必要がある。	学校の対応	コロナ禍でも地域の方との連携が取れるような取組を考え、厳しい条件下でも地域との連携が取れるような手立てを生み出し、実践していく。	生徒⑲	A	69	26	5	1	95
				保護者⑯	A	41	53	5	0	95
				地域⑥	A	53	33	3	0	86
施設	施設・設備や教材・教具が充実していて、活用している。 目標値: 肯定率80%(教㉕・生㉑)	A	限られた予算の中ではあるが、必要性の高い教材・教具から順次購入していくようにしたい。	教職員㉕	C	0	38	54	8	38
				生徒⑳	A	46	41	10	2	87
				保護者		-	-	-	-	
				地域		-	-	-	-	
学校関係者評価委員の所見	歴史のある学校のため、施設に傷んだ箇所も目立つようになってきている。予算的に厳しいとは思いますが、修繕を考慮願いたい。		学校の対応	現有の施設・備品を感謝の気持ちを持って丁寧に使用する。老朽化による破損箇所等も見られるため、市教委と相談しながら生徒が安全に使用できる環境を整えるよう、今後も速やかに対応したい。						